



●(C)当社の許可なく複写することを固くお断りします●

製薬協 科学技術館の常設展示を改装、次世代へくすりをアピール

日本製薬工業協会の上野裕明会長は 21 日、科学技術館（東京都千代田区）で常設展示している「くすりの部屋－クスリウム」の改装にあたり、現地であいさつ。観覧する子どもたちに「新しい医薬品へのチャレンジをおもしろいと思ってもらえるきっかけに少しでも役立ってもらえれば」と語った。日常生活でも「くすりは身近なもの」と強調しつつも、見た目は粉末や液体であるため「どうやって大切さを伝えるかむずかしい」と吐露。それでも、研究開発に長い時間がかかるほか、いまだ治療法のない疾患もあり、新薬に関する展示を通して次世代に伝われば、業界としても「将来も少しは明るくなる」と意義を強調した。

科学技術館は、現代から近未来の科学技術や産業技術に関する知識の普及・啓発を目的に、公益財団法人日本科学技術振興財団が 64 年に設立。製薬協は 16 年に常設展示を開設し、かつて 20 年に一度改装している。今回の改装では、ゲーム感覚でクイズに答えてくすりの知識を得られる展示コーナー、フォトコーナーなどを追加した。21～23 日には、春休みの子どもを対象とした公開実験ショーなど体験型イベントも開いている。

2025年 3月 24日（月） リスファクス 第9176号